

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎墨東病院
○大塚病院
○駒込病院

◎多摩総合医療センター
○多摩北部医療センター

研修プログラムの特徴

● 墨東病院（基幹施設）
都立墨東病院産婦人科専門研修プログラム

プログラム責任者：産婦人科 兵藤 博信 プログラム研修期間：3年

当院産婦人科は、東京都区東部唯一の総合周産期センターを新生児科とともに運営する周産期医療の要としての役割と、国の定める地域がん拠点病院における婦人科癌診療の中心施設としての側面で成り立っています。周産期部門では、年間約1000件の分娩を取扱い、とくにきわめて早い時期の早産や、ハイリスク妊娠、さまざまな合併症妊娠に対応し、広範囲から送られる母体搬送の件数は年間200件を超え、都内随一です。当院の研修では、正常分娩から鉗子分娩などの産科手術、帝王切開手術に数多く臨むことができます。婦人科部門では、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌をはじめあらゆる婦人科悪性腫瘍に対し、手術療法、放射線療法、抗癌剤による化学療法を数多く行っています。研修では多くの手術を経験し、さまざまな治療法を組み合わせた治療の計画に参画し、術前術後管理など、外科的治療の基本を学ぶことができます。良性疾患に対して、可能なものは腹腔鏡手術を行っています。開腹手術を含め、手術の執刀まで研修期間中に行うことが可能となります。当院産婦人科は、日本産科婦人科学会の専攻医指導施設であるばかりでなく、日本周産期・新生児医学会の周産期専門医（母体・胎児）認定基幹施設に、また日本婦人科腫瘍学会の婦人科腫瘍専門医指定研修施設に指定されており、それぞれの複数の専門医が研修指導にあたります。また、当院が1次・2次および3次救急施設、精神科救急施設であることから、産科救急、婦人科救急の症例にも多く接する研修が可能です。第一目標は産婦人科専門医資格の取得です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	周産期研修			周産期研修			周産期研修			婦人科研修		
	周産期医療の基礎を学び、基本的な診療手技を身につけることが第一に必要である。産婦人科医療に対する基本を習得した段階で、婦人科手術に臨む基本的態度を身につける。											
2 年次	地域医療（焼津市立総合病院）			地域医療（焼津市立総合病院）			生殖医療（聖路加国際病院）			生殖医療（聖路加国際病院）		
	地域医療に接することにより、産婦人科医療の現状に対する視野を広める。焼津市立総合病院は、生殖医療も行っているの で、生殖医療に接することも可能である。さらに、都市部における産婦人科医療に接するために、聖路加国際病院の勤務も 可能である。また、東京大学医学部附属病院を選択することも可能である。											
3 年次	婦人科研修			NICU 研修			周産期研修			周産期研修		
	悪性腫瘍診療における病棟業務を学びとる。再び周産期医療を行う前に NICU 研修を受け、新生児側の視点を身につけた後 に、帝王切開の術者が可能となる。											

● 多摩総合医療センター（基幹施設）
東京都立多摩総合医療センター産婦人科研修プログラム（東京医師アカデミー専門研修プログラム）

プログラム責任者：産婦人科 本多 泉 プログラム研修期間：3年

東京都立多摩総合医療センター産婦人科研修プログラムは、専門医養成組織である東京医師アカデミーの専門研修プログラムの一つです。基幹施設である当院は、地域がん診療拠点病院で、全国的にも上位に位置する年間160件以上の婦人科悪性腫瘍手術件数を有します。また都立小児総合医療センターとともに総合周産期母子医療センターの指定を受けており、年間約200件以上の母体搬送、20件以上のスーパー母体救命症例を受けいれています。また、都立病院としての立場から、産科・婦人科ともに多くの困難症例に対応しています。研修は1年目と3年目を基幹施設である当院産婦人科、2年目を東京都内もしくは神奈川県内の連携施設で行います。連携施設では、生殖補助医療と地域

医療を研修します。当院では婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケアの3領域を全期間通して研修していただきます。当院は、基本専門研修修了後の婦人科腫瘍専門医、周産期専門医（母体・胎児）、女性ヘルスケア専門医、内視鏡技術認定医の修練施設でもあり、サブスペシャリティ領域までカバーする質の高い指導医が在籍しています。3年次の当院産婦人科研修では、サブスペシャリティ領域の専門医取得に向けた機会を提供することも可能です。ゲノム診療科を兼任する臨床遺伝専門医も複数在籍しており、腫瘍・周産期いずれの領域でも必須となる臨床遺伝領域に関して早期から実臨床で触れる機会があります。3年間で本邦の標準治療や先進的な医療と地域の実情に合わせた実践的な医療を行える人材の育成を目指します。

研修コース
モデル

1 年次
2 年次
3 年次

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
産婦人科（多摩総合医療センター）											
産婦人科基礎（正常妊娠・分娩・産褥、正常新生児、婦人科良性腫瘍の診断・治療・手術）											
連携施設①						連携施設②					
連携施設①は生殖補助医療含む生殖内分泌強化可能な病院。連携施設②は産婦人科地域医療の経験可能な病院。											
産婦人科											
産婦人科応用（ハイリスク妊娠・分娩、婦人科悪性腫瘍の診断・治療・手術、腹腔鏡手術）											

● 大塚病院（連携施設）

指導医責任者：産婦人科 岩田 みさ子

当院は、東京都区部に存在する総合周産期母子医療センターとして高度な周産期医療を提供し、常時都内上位の母体搬送受け入れ件数を誇るとともに、地域中核病院として、婦人科疾患、女性のヘルスケア診療も行っています。また、恵まれた立地とセンター機能を活用し、さらには基幹施設である多摩総合医療センターや墨東病院での悪性腫瘍症例の経験、連携している東京科学大学病院での生殖医療の研修も含め、バランスの良いキャリア形成が可能なプログラムになっています。

〔1年次〕 当院にて産婦人科の基本手技の習得を行うとともに、周産期医療における妊産婦管理、婦人科良性腫瘍患者の診断・治療、産婦人科救急医療を中心に研修を行います。妊婦健診、産後1カ月健診、一般初診、再診外来を担当します（当初は指導医の監督下に行います）。

〔2年次〕 基幹施設である多摩総合医療センターまたは墨東病院に6か月所属し、婦人科悪性腫瘍の診療を中心に研修します。3～6か月は多摩北部医療センターで地域医療研修として、婦人科領域全般を広く研修します。より主体的な立場が求められ、知識・技術の定着が期待されます。東京科学大学病院で生殖内分泌診療と婦人科手術を中心に研修を3か月行います。

〔3年次〕 当院にて、これまでの経験をさらに深い知識・技術に深化させます。自分のサブスペシャリティへの方向性を持てるよう、診療内容の調整が可能です。初期臨床研修医、シニアレジデント1年目の指導を通じて、自身の知識、技術の再確認、定着を行います。

研修コース
モデル

1 年次
2 年次
3 年次

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
大塚病院											
基本手技の習得、妊産婦管理、産婦人科救急、婦人科良性疾患の手術を中心に研修。7月頃から妊婦健診、一般外来も段階的に担当。											
多摩総合医療センターまたは墨東病院						地域医療（多摩北部医療センター）		生殖医療（東京科学大学）			
多摩総合医療センターまたは墨東病院では悪性腫瘍を中心に研修を行う。地域医療では主体的な立場での診療も期待される。											
大塚病院											
生殖医療研修は2-3年目の間で3か月間。3年目は大塚病院でシニア1年次の指導も行い知識、技術を深化させるとともに専門医受験への準備を行う。											